

第2次裾野市環境基本計画の評価結果

1. 概要

「第2次裾野市環境基本計画」の平成30年度の環境に関する取組み内容の進捗状況について裾野市環境審議会（環境審議委員8名）において評価を実施。

実施日時：令和元年12月11日（水）

15:00～16:40

場 所：裾野市役所 地下会議室A・B

2. 評価方法

環境目標ごとに下記の区分で環境審議委員が評価。

区分	進捗状況
A	環境目標(2025年)を達成するために、順調に進捗している
B	一部遅れはあるものの、目標の達成が見込まれる
C	より一層の推進を要する

3. 結果

Aを3点、Bを2点、Cを1点とし、環境審議委員の評価点数の平均を評価基準に従い総合的に評価。全体評価は環境目標1～5の平均ではありません。

評価基準 A…2.5～3, B…1.5～2.4, C…0～1.4

環境目標	平均	評価
1. 【安全・安心】 安全・安心で快適な環境のまちづくり		
(意見) ○ほとんどの環境指標は目標達成に向けて進捗しているが、屋外焼却防止や市民1人1日平均有収水量削減については、有効な対策が見いだせない状況が続いている。 ○下水道供用区域における単独浄化槽世帯について、下水道への接続促進が必要である。 ○数値は順調に目標に届いている。水質汚濁の環境基準のハードルを上げてはどうか。 ○各種の苦情を減らす対策を。	2.4	B

<p>2. 【自然共生社会】 豊かな自然と人が共生するまちづくり</p>	1.9	B
<p>(意見) ○概ね環境目標達成に向けて進捗している。全国的な労働人口の減少に伴い産業構造の変化が生じており、単に“自然環境の保全”の観点だけでは耕作放棄地対策が進まないことが明らかになった。 ○パノラマロードだけではなく、休耕地にも花畑やその他の植物を植えることを考えても良いのでは。 ○各施策について市民の意見を入れることは大事。公園、緑が少ない。 ○耕作放棄地の解消については、農地の多面性の観点からも重要。農地プラン、農地中間管理機構とも連携して進める必要がある。 ○緑地や景観に関する市民意識調査の満足度が低い。</p>		
<p>3. 【循環型社会】 環境負荷の少ない循環を基調とするまちづくり</p>	2.4	B
<p>(意見) ○商工会、行政、市民の連携により、リサイクルを目的とした「エコマルシェ」等のゴミ減量・資源有効利用活動が成果を上げている。 ○市民1人1日当たりのごみ排出量が減少しているなど、取り組みが素晴らしい。 ○プラスチックごみ(マイクロプラスチック含む)の処理に対する項目も入れてはどうか。 ○貴重な埋立処分場を大事にしたいので、焼却灰は建築資材に検討を。 ○不法投棄に関しては事業者側もパトロールに巻き込む方策の検討を。</p>		
<p>4. 【低炭素社会】 地球温暖化防止に努めるまちづくり</p>	1.8	B
<p>(意見) ○本年の異常気象に伴う災害を経験し、“防災”の観点からも、再生可能エネルギーの必要性を感じた。 ○自動車産業は、CASE(C:繋がる A:自動 S:共有 E:電動化)へ流れており、裾野市は自動車企業、物流企業も多く、実験都市として最適である。ぜひ働きかけを。 ○地球温暖化防止は最重要課題。温室効果ガス排出量のデータが市役所だけに偏っているので市全体がつかめていない。各家庭、個人で排出抑制できる市民運動を展開する必要がある。</p>		

<p>5. 【環境教育】 持続可能な社会を実現するための人づくり</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内企業が地域貢献として積極的に環境教育に関わっていることが理解できた。一方で、取り組みの実施が評価の中心となっているが、本来は受講者のその後の意識改善や取り組み内容等で評価されるべきである。 ○大人も子供も環境について知る活動をもっと盛り上げていければよい。 ○イベントについては、学校、団体に頼りがちになるが、社会人に向けた教育の場の設定も考えることが大事である。 	2.3	B
<p>第2次環境基本計画 平成30年度進捗状況(全体評価)</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ビジョン達成に寄与したかの評価を各業務担当課に明記してほしい。 ○全体的に順調に進捗していると評価する。 ○地球温暖化防止やごみのリサイクルの推進が特に必要である。 ○市民の声を取り込むと同時に目標を考えないと。 ○来年度の数値目標見直し時にはSDGSを追記しての評価を提案する。 ○どの項目も順調によい方向に行っていると思う。一方で各課の取り組みの評価がほぼ継続中となっており、新しいアイデアで進めることを考える必要がある。 ○次年度の間目標達成評価では、社会変化の実情を踏まえ、委員全員で共通のビジョンを共有し、議論する必要があると考える。 	2.0	B